

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	2024年2月14日
【四半期会計期間】	第112期第3四半期(自 2023年10月1日 至 2023年12月31日)
【会社名】	近畿車輛株式会社
【英訳名】	THE KINKI SHARYO CO., LTD.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 吉 川 富 雄
【本店の所在の場所】	大阪府東大阪市稲田上町2丁目2番46号
【電話番号】	06(6746)5231
【事務連絡者氏名】	経理部長 宮 本 悟
【最寄りの連絡場所】	大阪府東大阪市稲田上町2丁目2番46号
【電話番号】	06(6746)5231
【事務連絡者氏名】	経理部長 宮 本 悟
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第 1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第111期 第 3 四半期 連結累計期間	第112期 第 3 四半期 連結累計期間	第111期
会計期間	自 2022年 4 月 1 日 至 2022年12月31日	自 2023年 4 月 1 日 至 2023年12月31日	自 2022年 4 月 1 日 至 2023年 3 月31日
売上高 (百万円)	27,066	29,739	35,873
経常利益 (百万円)	2,092	3,834	1,283
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益 (百万円)	2,064	3,375	1,183
四半期包括利益又は包括利益 (百万円)	5,441	5,211	3,026
純資産額 (百万円)	29,708	32,160	27,294
総資産額 (百万円)	59,811	56,943	55,488
1 株当たり四半期(当期)純利益 (円)	300.04	490.51	171.97
潜在株式調整後 1 株当たり 四半期(当期)純利益 (円)	-	-	-
自己資本比率 (%)	49.7	56.5	49.2

回次	第111期 第 3 四半期 連結会計期間	第112期 第 3 四半期 連結会計期間
会計期間	自 2022年10月 1 日 至 2022年12月31日	自 2023年10月 1 日 至 2023年12月31日
1 株当たり四半期純利益 (円)	184.83	215.25

- (注) 1 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
- 2 潜在株式調整後 1 株当たり四半期(当期)純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2 【事業の内容】

当第 3 四半期連結累計期間において、当社グループ（当社及び当社の関係会社）において営まれている事業の内容について、重要な変更はありません。

また、主要な関係会社についても異動はありません。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、経営者が連結会社の財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況に重要な影響を与える可能性があると認識している主要なリスクの発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

2 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループ（当社及び連結子会社）が判断したものであります。

(1) 財政状態及び経営成績の状況

当第3四半期連結累計期間の当社グループ（当社及び連結子会社）における業績は、売上高が297億3千9百万円（前年同四半期売上高270億6千6百万円）と前年同四半期と比べ26億7千2百万円の増収となりました。営業利益は34億9千5百万円（前年同四半期営業利益18億6千2百万円）と前年同四半期と比べ16億3千3百万円の増益となりました。経常利益は38億3千4百万円（前年同四半期経常利益20億9千2百万円）と前年同四半期と比べ17億4千2百万円の増益となりました。以上の結果、親会社株主に帰属する四半期純利益は33億7千5百万円（前年同四半期親会社株主に帰属する四半期純利益20億6千4百万円）と前年同四半期と比べ13億1千万円の増益となりました。

セグメントごとの経営成績は、次のとおりであります。

鉄道車両関連事業

東京地下鉄株式会社向電車、西日本旅客鉄道株式会社向電車及び北大阪急行電鉄株式会社向電車等により、売上高は291億2千6百万円（前年同四半期売上高264億5千6百万円）と前年同四半期と比べ26億7千万円の増収となりました。営業利益は38億9千3百万円（前年同四半期営業利益21億3千2百万円）と前年同四半期と比べ17億6千1百万円の増益となりました。

不動産賃貸事業

東大阪商業施設及び所沢商業施設を中心に売上高は6億1千2百万円（前年同四半期売上高6億1千万円）となりました。営業利益は5億3千3百万円（前年同四半期営業利益5億3千1百万円）となりました。

(資産)

当第3四半期連結会計期間末の資産合計は、569億4千3百万円（前連結会計年度末554億8千8百万円）と14億5千5百万円の増加となりました。流動資産は主に仕掛品の増加により、383億1千1百万円（前連結会計年度末374億4百万円）と9億6百万円の増加となりました。固定資産は、186億3千2百万円（前連結会計年度末180億8千3百万円）と5億4千8百万円の増加となりました。

(負債)

当第3四半期連結会計期間末の負債合計は、247億8千2百万円（前連結会計年度末281億9千4百万円）と34億1千1百万円の減少となりました。流動負債は1年内返済予定の長期借入金が増加したものの、主に短期借入金の減少により、187億9千1百万円（前連結会計年度末194億6千6百万円）と6億7千4百万円の減少となりました。固定負債は主に長期借入金の減少により、59億9千万円（前連結会計年度末87億2千8百万円）と27億3千7百万円の減少となりました。

(純資産)

当第3四半期連結会計期間末の純資産合計は321億6千万円（前連結会計年度末272億9千4百万円）と48億6千6百万円の増加となりました。

(2) 研究開発活動

当第3四半期連結累計期間の研究開発費の総額は2億2百万円であります。

(3) 生産、受注及び販売の実績

生産実績

当第3四半期連結累計期間における生産実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	生産高(百万円)	前年同四半期比(%)
鉄道車両関連事業	26,179	108.6
合計	26,179	108.6

受注実績

当第3四半期連結累計期間における受注実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	受注高(百万円)	前年同四半期比(%)	受注残高(百万円)	前年同四半期比(%)
鉄道車両関連事業	51,868	292.7	132,220	115.7
合計	51,868	292.7	132,220	115.7

販売実績

当第3四半期連結累計期間における販売実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	販売高(百万円)	前年同四半期比(%)
鉄道車両関連事業	29,126	110.1
不動産賃貸事業	612	100.4
合計	29,739	109.9

3 【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	12,000,000
計	12,000,000

【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間 末現在発行数(株) (2023年12月31日)	提出日現在 発行数(株) (2024年2月14日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	6,908,359	6,908,359	東京証券取引所 スタンダード市場	単元株式数 100株
計	6,908,359	6,908,359		

(2) 【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
2023年10月1日～ 2023年12月31日		6,908,359		5,252		2,624

(5) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(6) 【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の議決権の状況については、株主名簿の記載内容が確認できず、記載することができませんので、直前の基準日である2023年9月30日の株主名簿により記載しております。

【発行済株式】

2023年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 27,400		単元株式数100株
完全議決権株式(その他)	普通株式 6,859,800	68,598	同上
単元未満株式	普通株式 21,159		
発行済株式総数	6,908,359		
総株主の議決権		68,598	

(注) 1 「完全議決権株式(その他)」欄の普通株式には、証券保管振替機構名義の株式が200株(議決権2個)含まれております。

2 「単元未満株式」欄の普通株式には、当社所有の自己株式83株が含まれております。

【自己株式等】

2023年9月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式総数 に対する所有 株式数の割合(%)
(自己保有株式) 近畿車輛株式会社	東大阪市稲田上町2丁目 2番46号	27,400		27,400	0.40
計		27,400		27,400	0.40

(注) 株主名簿上は当社名義となっておりますが、実質的に所有していない株式が200株(議決権2個)あります。

なお、当該株式数は、上記「発行済株式」の「完全議決権株式(その他)」欄の普通株式に含まれております。

2 【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書提出日後、当四半期累計期間における役員の異動はありません。

第4 【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間(2023年10月1日から2023年12月31日まで)及び第3四半期連結累計期間(2023年4月1日から2023年12月31日まで)に係る四半期連結財務諸表について、有限責任 あずさ監査法人により四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2023年 3 月31日)	当第 3 四半期連結会計期間 (2023年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	7,635	8,060
受取手形、売掛金及び契約資産	14,096	13,597
仕掛品	13,581	15,736
原材料及び貯蔵品	524	515
その他	1,591	430
貸倒引当金	25	28
流動資産合計	37,404	38,311
固定資産		
有形固定資産	12,258	11,858
無形固定資産	111	291
投資その他の資産		
投資有価証券	5,403	6,290
その他	313	195
貸倒引当金	3	3
投資その他の資産合計	5,714	6,482
固定資産合計	18,083	18,632
資産合計	55,488	56,943

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2023年12月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	5,537	5,309
短期借入金	4,700	-
1年内返済予定の長期借入金	-	3,000
未払法人税等	156	470
契約負債	3,314	5,657
賞与引当金	378	161
製品保証引当金	637	382
受注損失引当金	1,163	696
その他	3,579	3,113
流動負債合計	19,466	18,791
固定負債		
長期借入金	3,000	-
退職給付に係る負債	2,798	2,733
その他	2,929	3,257
固定負債合計	8,728	5,990
負債合計	28,194	24,782
純資産の部		
株主資本		
資本金	5,252	5,252
資本剰余金	3,124	3,124
利益剰余金	15,630	18,661
自己株式	105	106
株主資本合計	23,902	26,932
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,373	1,989
為替換算調整勘定	2,074	3,282
退職給付に係る調整累計額	56	44
その他の包括利益累計額合計	3,392	5,228
純資産合計	27,294	32,160
負債純資産合計	55,488	56,943

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

	(単位：百万円)	
	前第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)
売上高	27,066	29,739
売上原価	22,638	23,438
売上総利益	4,428	6,301
販売費及び一般管理費	2,566	2,805
営業利益	1,862	3,495
営業外収益		
受取利息	8	90
受取配当金	107	128
為替差益	190	227
雑収入	23	11
営業外収益合計	330	458
営業外費用		
支払利息	32	54
支払手数料	35	-
固定資産除却損	7	41
雑支出	24	23
営業外費用合計	100	119
経常利益	2,092	3,834
税金等調整前四半期純利益	2,092	3,834
法人税、住民税及び事業税	7	481
法人税等還付税額	-	36
法人税等調整額	19	14
法人税等合計	27	459
四半期純利益	2,064	3,375
非支配株主に帰属する四半期純利益	-	-
親会社株主に帰属する四半期純利益	2,064	3,375

【四半期連結包括利益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)
四半期純利益	2,064	3,375
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	249	615
為替換算調整勘定	3,100	1,207
退職給付に係る調整額	26	12
その他の包括利益合計	3,376	1,835
四半期包括利益	5,441	5,211
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	5,441	5,211
非支配株主に係る四半期包括利益	-	-

【注記事項】

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(無形固定資産に係る償却費を含む。)は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)
減価償却費	908百万円	945百万円

(株主資本等関係)

前第3四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2022年5月12日 取締役会	普通株式	206	30.00	2022年3月31日	2022年6月13日	利益剰余金

2. 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日
後となるもの

該当事項はありません。

当第3四半期連結累計期間(自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2023年5月22日 取締役会	普通株式	344	50.00	2023年3月31日	2023年6月13日	利益剰余金

2. 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日
後となるもの

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位: 百万円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期連結損益 計算書計上額 (注) 2
	鉄道車両 関連事業	不動産 賃貸事業	計		
売上高					
顧客との契約から生じる収益	26,456	-	26,456	-	26,456
その他の収益	-	610	610	-	610
外部顧客への売上高	26,456	610	27,066	-	27,066
セグメント間の内部売上高 又は振替高	-	-	-	-	-
計	26,456	610	27,066	-	27,066
セグメント利益	2,132	531	2,664	802	1,862

(注) 1 セグメント利益の調整額 802百万円は、各報告セグメントに帰属していない全社費用 802百万円であり、全社費用は当社本社の管理部門に係る費用であります。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

当第3四半期連結累計期間(自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位: 百万円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期連結損益 計算書計上額 (注) 2
	鉄道車両 関連事業	不動産 賃貸事業	計		
売上高					
顧客との契約から生じる収益	29,126	-	29,126	-	29,126
その他の収益	-	612	612	-	612
外部顧客への売上高	29,126	612	29,739	-	29,739
セグメント間の内部売上高 又は振替高	-	-	-	-	-
計	29,126	612	29,739	-	29,739
セグメント利益	3,893	533	4,427	931	3,495

(注) 1 セグメント利益の調整額 931百万円は、各報告セグメントに帰属していない全社費用 931百万円であり、全社費用は当社本社の管理部門に係る費用であります。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

(収益認識関係)

顧客との契約から生じる収益を分解した情報は、「注記事項(セグメント情報等)」に記載のとおりであります。

(1 株当たり情報)

1 株当たり四半期純利益及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第 3 四半期連結累計期間 (自 2022年 4 月 1 日 至 2022年12月31日)	当第 3 四半期連結累計期間 (自 2023年 4 月 1 日 至 2023年12月31日)
1 株当たり四半期純利益	300円04銭	490円51銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益(百万円)	2,064	3,375
普通株主に帰属しない金額(百万円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する 四半期純利益(百万円)	2,064	3,375
普通株式の期中平均株式数(株)	6,881,216	6,880,916

(注) 潜在株式調整後 1 株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2 【その他】

該当事項はありません。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

2024年 2月14日

近畿車輛株式会社
取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

大阪事務所

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 大 橋 盛 子

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 前 田 俊 之

監査人の結論

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている近畿車輛株式会社の2023年4月1日から2024年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（2023年10月1日から2023年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（2023年4月1日から2023年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、近畿車輛株式会社及び連結子会社の2023年12月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項が全ての重要な点において認められなかった。

監査人の結論の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューの基準における当監査法人の責任は、「四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

四半期連結財務諸表に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

四半期連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき四半期連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した四半期レビューに基づいて、四半期レビュー報告書において独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に従って、四半期レビューの過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対する質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続を実施する。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。
- ・ 継続企業の前提に関する事項について、重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められると判断した場合には、入手した証拠に基づき、四半期連結財務諸表において、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、適正に表示されていないと信じさせる事項が認められないかどうか結論付ける。また、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、四半期レビュー報告書において四半期連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する四半期連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、四半期連結財務諸表に対して限定付結論又は否定的結論を表明することが求められている。監査人の結論は、四半期レビュー報告書日までに入手した証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 四半期連結財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠していないと信じさせる事項が認められないかどうかとともに、関連する注記事項を含めた四半期連結財務諸表の表示、構成及び内容、並びに四半期連結財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示していないと信じさせる事項が認められないかどうかを評価する。
- ・ 四半期連結財務諸表に対する結論を表明するために、会社及び連結子会社の財務情報に関する証拠を入手する。監査人は、四半期連結財務諸表の四半期レビューに関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査人の結論に対して責任を負う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した四半期レビューの範囲とその実施時期、四半期レビュー上の重要な発見事項について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去するための対応策を講じている場合又は阻害要因を許容可能な水準にまで軽減するためのセーフガードを適用している場合はその内容について報告を行う。

利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

-
- (注) １．上記の四半期レビュー報告書の原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。
２．XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。